

JICA いちおし 8月号

(2014年8月4日発行)

今月の各国ホットライン		
国名	掲載記事	ページ
エルサルバドル	中米地域最重要物流網を改善！	2
グアテマラ	世界複合遺産「ティカル国立公園」を地域住民の手で 守ろう！！	2
コスタリカ	高倉式コンポストと一村一品運動をコスタリカに！！	4
コロンビア	コロンビア初の SATREPS 案件いよいよ本格始動！	5
ニカラグア	2014年中米・カリブ日本語教育セミナー開催！	6
ブラジル	日伯共同声明の実現に向けて	6
ペルー	合同研修応募説明会開催！	7
ボリビア	算数の教え方が国境を超える！	8

青字部分には更に詳細な情報を記載したリンクを張っておりますので、あわせてご確認ください。

エルサルバドル

いちおし!

中米地域最重要物流網を改善!

エルサルバドルを東西に横断するパン・アメリカン・ハイウェイは、メキシコからパナマまでを結ぶ中米地域最重要物流網です。同国第2の都市サンミゲル市周辺のバイパス整備等は、激しい交通渋滞の解消、開発が遅れている東部地域の発展、ひいては中米域内のロジスティックの改善をもたらす効果が期待されているところ、6月に就任した大統領の就任演説でも言及があり、近く関連のLA署名式が当地で行われる予定です。

グアテマラ

ちょっと気になる話

グアテマラの手新聞 Prens Libre 紙がこの程、「国民の借金が12%増加」と題する記事を掲載しました。それによりますと、6月30日現在の当地国民の（個人としての）借入金は総額1,298億9660万ケツアル（約1兆6,900億円）に達し、昨年比で12%の増加を記録したと報じました。過去5年間の数値でみると67%の増加となりました。

また同紙によると、借入の手段として一般庶民の間で最も定着したのは、クレジットカード。2014年1~6月の間でクレジットカードによる借入は79億4190万ケツアル（約1,030億円）に上り、これは昨年同時期比で18.6%の増額。同時期のクレジットカードによる購入件数は937,245件を数えました。

他方、クレジットカード使用に対し銀行が課す平均年利は45.94%にも上り、これは例えば自動車ローンの12.58等を大きく上回っているため、一般国民に対し大きな負担が強いられている現状が明らかになりました。

社会調査研究協会（ASIES）の金融アナリスト、カルロス・ゴンザレス氏によると、グアテマラにおける金融機関の金利設定を定める法令はなく、自由であるため、需要と供給の原則に影響されるままブレる状況であると言います。

また、銀行側も顧客の支払能力や延滞記録を勘案せず、容易に限度額を超えた貸出を行うことも大きな問題であると指摘されています。

このように、手元に現金がなくとも容易に物品・サービスを購入できる状況の中、高利を支払うグアテマラ国民に対し、銀行監督庁は、「支払不能となる事態を避けるため、購入の前に別の方策を再考すること、広告・宣伝に振り回されないこと、そして自信の予算の上限を守ることが重要」と呼びかけています。

いちおし！

世界複合遺産「ティカル国立公園」を地域住民の手で守ろう！！

ティカル遺跡は、古代文明の一つであるマヤ文明の象徴ともいえる 50m 級の石造ピラミッドが並ぶ世界複合遺産です。世界各国からこの美しいピラミッド及び野生動植物に魅入られた観光客が毎年約 15 万人訪れます。しかし、ティカル国立公園周辺の地元住民はティカル遺跡の盗掘や自然破壊に関し、帰属意識、アイデンティティが低く殆ど無関心であるため文化資源及び自然資源が破壊されています。

そこで、グアテマラ初の草の根技術協力として、2009 年よりティカル国立公園での活動実績のある金沢大学に委託し [世界複合遺産「ティカル国立公園」の保存と活用を通じた住民の生活向上支援プロジェクト](#) を今年 6 月に開始しました。地元住民に対し、世界遺産を活用した生活向上のための仕事の基礎を身に着けるべく、民芸品の制作、文化・自然ガイド、遺跡修復作業の研修を受けることによりアイデンティティを高めティカル国立公園の文化・自然保護に繋がることが期待されます。



ティカル国立公園周辺村の地域住民 による輸出用観葉植物の栽培



ティカル遺跡一号神殿 [ジャガー神殿]

コスタリカ

ちょっと気になる話

2014年ブラジルワールドカップ。コスタリカは、中米の国として初めてベスト8まで勝ち進みました。誰もが予想しなかった死のD組からの1位通過、そして強豪ギリシャへの勝利にコスタリカ中が歓喜の渦に包まれました。最後のオランダ戦の激戦の後の惜敗ということで、残念な気持ちもありましたが、中米サッカーの歴史に新たな1ページを刻んだ誇り高きセレ（代表）を国民は喜んで迎え入れました。すでに、2018年のロシア大会に向けて、国民の熱は高まっています！

いちおし！

高倉式コンポストと一村一品運動をコスタリカに！！

コスタリカの地方自治体を対象にしたJICAセミナーを8月14日（木）に実施します。内容は、JICAコスタリカ支所が力を入れている「高倉式コンポスト」と「一村一品運動」についてです。それぞれのテーマで活動するボランティアとカウンターパートの活動紹介もお楽しみに！

- 前回の事業説明会の様子

<http://www.jica.go.jp/costarica/office/information/event/ku57pq000011pxfc-att/20140325.pdf>

- 高倉式コンポスト研修の様子

<http://www.jica.go.jp/costarica/office/information/event/ku57pq000011pxfc-att/130903.pdf>

コロンビア

いちおし!

コロンビア初の SATREPS 案件いよいよ本格始動!

コロンビアで初めての SATREPS 案件となる「遺伝的改良と先端フィールド管理技術の活用によるラテンアメリカ型省資源稲作の開発と定着プロジェクト」が、7月初旬の長期専門家赴任により本格的に開始された。コロンビア政府は、国内紛争によって生まれた国内避難民の農村帰還後の支援として、小規模農家の農業技術支援を重要政策の一つに位置付けている。しかし、コロンビア国内のコメ栽培は現在、水の利用効率が低いことや旱魃等の影響による生産量減少、高コストなど様々な課題を抱えており、限られた水資源を利用して高収量のコメ栽培を行う必要に迫られている。また、コロンビアでは需要に対してコメの生産が不足し、輸入に依存している状況にある。さらに米国との FTA 発効により米国の安価なコメの輸入が増加すれば、コロンビアの稲作農家が品質・価格面で打撃を受けるとも言われている。



CIATにてプロジェクト・キックオフミーティングを実施

こうした課題を解決するため、東京大学、九州大学、CIAT（国際熱帯農業センター）、コロンビア農業農村開発省など日本・コロンビアの多数の機関の協働の下、省資源型稲作技術や新種の開発を通じて、限られた水資源・施肥成分の効率を高める研究を行うため、事業が開始されることとなった。今年5月のプ



稲作農家の話を聞く日本人研究者

ロジェクト開始時には日本から研究者チームが来訪し、CIAT 内でキックオフミーティングを行うとともに、プロジェクトサイトである CIAT 内圃場とイバゲ市（トリマ県）の現場を視察した。

8月末以降に日本から研究者が来訪して具体的な調査研究を行う計画であり、両国間での双方向の研究員派遣も計画されている。コロンビア・日本両国間の学術的交流に加え、文化面・社会面でも様々な相乗効果の発現が期待されている。

ニカラグア

いちおし!

2014年中米・カリブ日本語教育セミナー開催!

8月22日～24日首都マナグアで『2014年中米・カリブ日本語教育セミナー』が開催されます。このセミナーは中米・カリブ地域9カ国、約40名の日本語教育に係わるJICAボランティアや現地で日本語教育に係わる教師陣が一堂に会する場となっており、毎年、開催国を持ちまわりにして実施しており、今年で6回目となりました。今年は、国際交流基金メキシコ日本文化センターから日本語教育アドバイザーによる講演、参加国の日本語教育の現状、ワークショップなど盛りだくさんの内容となっています。

アニメの普及により『日本語』に興味を持つ若者が増えている昨今ですので、このようなセミナーを通して、更なる『日本語教育』指導者の育成に繋がることを期待しています。



写真：ニカラグア史上3人目の日本語現地教師 ランドル先生

ブラジル

いちおし!

日伯共同声明の実現に向けて

安倍総理訪伯を経て、「日伯戦略的グローバルパートナーシップ構築に関する共同声明」が発表されました。「造船」、「3年間で900名の人材育成」、「日系社会支援」等、JICAが取り組む内容も複数含まれています。

中でも、セラード開発40周年を機に打ち出された「穀物輸送インフラに関する対話の開始」は、ブラジルの穀物輸送におけるボトルネックの解決に向けた挑戦です。今後、ブラジル側との協議等を通じ、具体的な取り組みを検討していきます。

ペルー

ちょっと気になる話

合同研修応募説明会開催！



去る7月4日、海外日系人協会（横浜市）とペルー日系人協会（リマ市）をTV会議システムでつないだ合同研修応募説明会が開催され、日本での研修に興味を持つ日系ペルー人を中心に、80名を超える参加者が集まりました。

リマ会場では、日本財団及びJICA 帰国研修員が中心となり、自身の経験を踏まえて、日本で研修を受けることのメリットを参加者に語りかけました。

また、横浜会場では、海外日系人協会担当者から日本財団日系スカラーシップ・夢の実現プロジェクトを説明、現在同プログラムに参加中の研修員がその経験を発表しました。

JICA ペルー事務所もリマ会場にて、「日系社会リーダー育成事業」の応募要領について説明すると共に、JICA 日系研修^(※)の帰国研修員による経験発表が行なわれました。

参加者からは研修分野や応募調書についての様々な質問などが寄せられ、関心が高く熱気溢れる説明会になりました。

日系人の方々は、政治・経済・学術などあらゆる分野で活躍をしており、日秘信頼関係の構築・発展に重要な役割を果たしています。JICA は日系人との関係を強化し、両国の相互発展に寄与しています。この会場の参加者からも、日秘友好のかけ橋となる有為な人材が輩出されることでしょう。

(※) 中南米地域の日系人を通じ、移住先国の国造りに貢献することを目的とし、医療、福祉、継承日本語教育、農業、電気、通信等、幅広い分野で研修員を受入れている。

ボリビア

ちょっと気になる話

算数の教え方が国境を超える！

ボリビア国ラパス市にあるグアテマラ小学校は、「暗記する算数」から「理解する算数」に展開する教え方を目指しています。この学校では、中米グアテマラ共和国への日本の支援で作成された教科書「グアテマティカ」を先生のための教材として独自に取り入れました。先生同士が教訓と経験を分かち合う日本の公開授業システムと日本の教え方を導入し、ボリビアの教育の質がよくなることが期待されます。



(写真) グアテマラ小学校での算数の授業の様子

(写真) 公開授業後の意見交換の様子。コルケ校長先生（男性右）は、2004年に日本での研修に参加されました。



以上